

東京農工大学外部評価結果報告書

令和元年 7 月

目次

I .外部評価の概要

1. 外部評価委員会構成 1
2. 外部評価の方法 2
3. 外部評価委員会の日程 2
4. 配付資料一覧 3
5. 外部評価委員会本学出席者 3

II . 外部評価委員会の講評 4

I .外部評価の概要

東京農工大学では、教育研究活動の質を保証する観点から、評価項目を設定し、平成30年度に自己点検評価を実施した。評価項目を設定するにあたり、「外部評価に向けたOB・OGとの事前懇談会」を実施し、本学の卒業生6名に参加、ご意見をいただくことで、ご協力をいただいた。

令和元年度、自己点検活動の結果を「自己点検評価報告書」としてまとめ、学外者による検証（以下「外部評価」という。）を行った。

本報告書において、外部評価結果を報告する。

1. 外部評価委員会

外部評価委員会委員は、本学の経営協議会委員及び経営協議会委員経験者、平成30年度に実施した「外部評価に向けたOB・OGとの事前懇談会」に、ご出席いただいた本学OB・OGで構成した。

構成員は、以下の7名である。

（委員長）

早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 特任研究教授 逢坂 哲彌

国際基督教大学 学長 日比谷 潤子

株式会社日立製作所 名誉フェロー 小泉 英明

弘前大学 准教授 園木 和典

東京工業大学 特任教授 小田 拓也

株式会社資生堂 蓑田 裕美

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課 吉田 大作

2. 外部評価の方法

- (1) 外部評価実施にあたり、評価項目に沿った自己点検評価を行う参考とするため、東京農工大学全学計画評価委員会は、OB・OGからの意見聴取、本学学生の就職先企業等からの意見聴取、教員からの意見聴取を実施した。
- (2) 外部評価委員は、自己点検評価報告書に基づき、評価項目ごとに、4段階評価を実施し、外部評価フォームに評価結果を記載し、本学に提出した。
- (4) 東京農工大学全学計画評価委員会は、すべての外部評価委員の評価結果をとりまとめ、外部評価委員会を、令和元年7月16日(火)に開催した。
外部評価委員会において、各委員の評定結果の調整を行い、外部評価委員全体としての評定を決定した。(6頁 別紙のとおり)

3. 外部評価委員会の日程

日時：令和元年7月16日(火) 10:30~16:00

場所：小金井キャンパス 140周年記念会館

時間	事項
10:30~10:40	各領域の概要説明
10:40~12:00	自己点検評価書についての質疑応答
13:00~14:00	学内施設見学 ・スマートモビリティ研究拠点、科学博物館
14:15~15:30	意見交換 (論点) ①【教育】教育の質保証のための取組の検証 ②【研究】研究大学として世界的認知度を高める取組の検証 ③【国際】学生の海外派遣のための施策・環境整備状況検証 ④【業務運営】業務の効率化・合理化に向けた施策検証 (※教員アンケート結果の検証を含む) ⑤【その他】
15:40~16:00	外部評価委員会委員からの講評

4. 配付資料一覧

- ・外部評価委員会スケジュール
- ・外部評価委員会委員名簿
- ・座席表
- <別冊ファイル冊子>
- ・資料1 外部評価委員会自己点検評価報告書概要
- ・資料2 評価一覧
- ・資料3 評価コメント一覧
- ・資料4 自己点検評価報告書及び参考資料

5. 外部評価委員会本学出席者

学長	大野 弘幸	
理事（教育担当）	梅田 倫弘	
理事（学術・研究担当）	荻原 勲	
理事（渉外担当）	岡山 隆之	
理事（総務・財務担当）	堀川 光久	
農学研究院長・農学府長・農学部長	千葉 一裕	
工学研究院長・工学府長・工学部長	三沢 和彦	
生物システム応用科学府長	秋澤 淳	
連合農学研究科長	船田 良	

Ⅱ.外部評価委員会の講評

東京農工大学は、全体的に、とても熱心に教育研究活動に取り組んでおり、高く評価できる。各委員で評定のランクが分かれる項目については、各委員と大学側の出席者との意見交換等を行った結果を踏まえ、委員からの意見を残した上で、高い方のランクとすることを外部評価委員会として決定した。各委員からの意見を踏まえて、東京農工大学がさらに発展されることを期待する。

外部評価委員から多くの意見が出たポイントは、以下のとおりである。これらについて、大学としても重点的に取組を進めて頂きたい。

<教育>

- 能動的学習について
 - ・ 社会的な課題を解決するため、今後ますます融合研究が必要とされており、**双方向の遠隔講義による能動的学習の取組は高く評価できる**。遠隔講義システムを効果的に行う方策について、今後、より一層検証を進めていただきたい。
 - ・ シラバスにおいては、到達基準が学生の立場から分かりやすく記載できている点、全体の教育目標に照らして、科目別の目標一覧が整理されている点が評価できる。一方、評価方法や、到達基準との整合性においては、一部の科目で不十分な点があるので、シラバス点検内容を再度徹底し、能動的学習を促していただきたい。

<研究>

- 世界水準にあわせた研究戦略の策定に向けて
 - ・ 組織的な取組により、**産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)に採択され、実施している点は高く評価できる**。

研究実績の評価のために設定された各種指標については、国内機関との比較が多いため、大学にとっての強みとなる研究分野について、世界の第一線で活躍される研究者等を集めた会議等を立ち上げるなど、**世界水準の目標設定、研究戦略の策定について、検討していただきたい**。そのような施策への対応により、研究面で世界から注目される成果の創出につながり、教育面でも、その効果によって留学生数が増加し、グローバルな視点から農工大の評価が高まっていくことにつながる。

<国際>

- グローバル人材の育成について
教育研究活動とも連動させながら、グローバル人材の育成に取り組んでいただきたい。
 - ・海外派遣者数や留学生の受入数等、大学として目標に掲げている推移が、多数の教育プログラムの実施により着実に推移している点は評価できる。今後、海外派遣者数をさらに増加させるための方策として、学部教育において、海外派遣をカリキュラムへ導入することなどを含め、検討していただきたい。
 - ・海外派遣、留学受入の目標値等のアピールなど、外向きな受験生を取り込む工夫について検討していただきたい。

<業務運営>

- 教員の教育、研究の時間確保のための業務運営の負担軽減・効率化
 - ・国立大学の取り組むべき活動の幅が一層広がる中で、各教員の教育・研究のための時間の確保は欠かせない状況にある。**教員が担当すべき業務と事務職員が担当すべき業務の精査や、アンケートも含めた各種事務手続きのWEB化を推進し、業務運営の効率化に努めていただきたい。**
 - ・業務運営においても、会議の効率化等のKPIを設定して検証を行うことで、効果の高い取組に業務を絞り、効果の少ない取組は思い切って見直す決断をする等、業務の取捨選択についても検討していただきたい。
- 情報発信・ブランド力強化について
 - ・全卒業生・修了生に向けたOB・OGアンケートは、大学の今後の様々なプラン作りや、寄附のセグメント化にも有用な情報となるため、実施を検討していただきたい。なお、アンケートにより連絡先が入手できたOB・OGには、定期的な情報提供を継続して行うことが望ましい。
 - ・農工大のブランド戦略にあたって、特に本学の特徴ある農工連携の重点的プログラム実施など、外部からの意見を積極的に取り入れていただきたい。

外部評価委員会

委員長 逢坂 哲彌

別紙 評価項目及び評価結果

領域	項目	項目内容	選択肢	評価
教育	1-1	<大学の目的やディプロマポリシーに即した学習成果の検証> 大学等の目的やディプロマポリシーに即して、適切な学習成果が得られているか。	得られている	○
			おおむね得られている	
			一部、不十分である	
			不十分である	
	1-2	<教育の質を保证するための各種取組の検証> 教育の質を保证するための各種取組（FD研修、能動的学習を促す授業科目の導入等）は有効に機能しているか。	有効に機能している	○
			おおむね有効に機能している	
			一部、不十分である	
			不十分である	
	1-3	<実践型グローバル人材育成のための全学の施策の検証> 本学が中期目標として掲げる「国際社会において活躍できる実践型グローバル人材の育成」を実現するために実施している施策は有効に機能しているか。	有効に機能している	○
			おおむね有効に機能している	
			一部、不十分である	
			不十分である	
1-4	<社会や地域を志向した教育活動の現状と各種取組の検証> 社会人への教育、地方自治体等と連携して実施する教育について本学が実施している各種施策が有効に機能しているか。	有効に機能している	○	
		おおむね有効に機能している		
		一部、不十分である		
		不十分である		
研究	2-1	<研究大学として世界的認知度を高めるための各種施策の検証> 本学が中期目標として掲げる「研究大学として世界的認知度を高める」を実現するために実施している施策は有効に機能しているか。	有効に機能している	○
			おおむね有効に機能している	
			一部、不十分である	
			不十分である	
	2-2	<産業界の需要と政策動向を踏まえた産学官連携活動と研究成果の社会実装についての検証> 本学が実施する産学官連携活動は産業界の需要と政策動向を踏まえて効果的に実施されているか。また、これらの産学官連携活動において、大学の研究成果を社会実装に結び付けるための取組が効果的に実施されているか。	効果的に実施されている	○
			おおむね効果的に実施されている	
			一部、不十分である	
			不十分である	
	2-3	<オープンイノベーションを志向した産学連携活動を推進する施策の検証> 民間企業との連携を強化し、各々が保有する資源を活用して、オープンイノベーションを実現するための本学の施策は効果的に実施されているか。	効果的に実施されている	○
			おおむね効果的に実施されている	
一部、不十分である				
不十分である				
2-4	<若手研究者及び女性研究者の育成支援施策の検証> 優秀な若手研究者及び女性研究者を育成するための本学の施策は効果的に実施されているか。	効果的に実施されている	○	
		おおむね効果的に実施されている		
2-5	<各研究院における前回外部評価改善事項等の検証> 農学研究院及び工学研究院において、平成25年度に受審した外部評価において「改善を要する点」「更なる向上が期待される点」として列挙された事項が改善、向上しているか。	効果的に実施されている	○	
		おおむね効果的に実施されている		
		一部、不十分である		
		不十分である		
国際	3-1	<学生の海外派遣のための施策や環境・体制整備状況の検証> 本学の留学サポート制度や海外派遣のための施策は効果的に実施されているか。	効果的に実施されている	○
			おおむね効果的に実施されている	
			一部、不十分である	
			不十分である	
3-2	<外国人留学生の修学・生活支援制度の検証> 本学の外国人留学生の修学・生活支援・就職支援等のための各種取組は効果的に実施されているか。	効果的に実施されている	○	
		おおむね効果的に実施されている		
		一部、不十分である		
		不十分である		
業務運営	4-1	<ガバナンス改革の検証> 大学の機能を強化するため、学長リーダーシップの下で実施されているガバナンス改革のための施策は効果的に実施されているか。	効果的に実施されている	○
			おおむね効果的に実施されている	
			一部、不十分である	
			不十分である	
	4-2	<業務の効率化・合理化に向けた施策の検証> 業務の効率化・合理化に向けて実施している施策や、専門性を有する人材の養成のための施策は有効に実施されているか。	有効に実施されている	○
			おおむね有効に実施されている	
			一部、不十分である	
			不十分である	
	4-3	<情報発信の推進のための施策の検証> 大学が社会に向けて実施している情報発信のための各種施策は効果的に実施されているか。	効果的に実施されている	○
			おおむね効果的に実施されている	
一部、不十分である				
不十分である				
4-4	<寄付金その他、自己収入の増加に向けた施策の検証> 大学基金募集の活発化のための施策は有効に実施されているか。	有効に実施されている	○	
		おおむね有効に実施されている		
		一部、不十分である		
		不十分である		
4-5	<法令遵守事項の整備状況の検証> 本学のコンプライアンス体制、研究活動における法令遵守のための取組、情報セキュリティ対策のための取組等は適切に実施されているか。	適切に実施されている	○	
		おおむね適切に実施されている		
		一部、不十分である		
		不十分である		